

教宣 せぶん

共感を手に

2週間総行動後半がスタートしました。私たちのグループは香川県高松市に飛びました。高松駅駅頭で宣伝行動をおこない、続いて高松支店への要請行動、その後、繁華街での宣伝行動やポスティング、四国財務局への要請行動など終日宣伝行動・要請行動をおこないました。

四国財務局への要請行動では、事前のアポイント通りに、時間正確に対応していただき、会議室で真摯に私たちの要請を受けていただきました。私たちが置かれている立場や現状を訴え、しっかりと要請をしました。財務局の担当者も、それぞれの立場や考え方があるのですが、私たちの要請や訴えに真摯に耳を傾けてくれました。「要請行動を受ける立場って、こうでなくちゃいけないよな」とは要請に行った者の異口同音の言葉でした。それは、同じ要請行動でも当社の要請を受ける姿勢があまりにも不誠実きわまりないからです。

事前に行った高松支店への要請行動での支店側の対応です。

「支店長はいないのですか？」

「支店長は不在です。前もってお話ししていた通りだ」

「今日は入社式なのに支店長が不在なのですか？」

「……………」

「今日は入社式ですよ？」

「社内のスケジュールを答えるつもりはありません」

「行政処分を下された年度初めの日に支店長が不在なのですか？」

「不在なものは不在です」

最初のやり取りでこのような発言をGLが繰り返しました。「入社式があり支店長が対応できないので私が対応します」となぜ言えないのでしょうか？なぜ「不在」などというあからさまな「ウソ」をつくののでしょうか？このGLの言葉の端々に高飛車な、傲慢さを感じ、どうして要請を真摯に受け止めようとする姿勢を示せないのか、まったく理解できませんでした。こうした全国で行なわれている要請行動をむずかしく、長時間にしている原因は、間違いなく会社の不誠実さです。金融庁に要請に行っても、財務局に行っても、損保協会に行っても、このような非礼な対応をされたことはありません。会議室や応接室に通され、短時間でまじめに要請は終わります。また要請に同行してくれる他労組の方々も「どこの会社に要請に行ってもこんな失礼な対応をされたことはない」と口を揃えます。会社は道行く人やこの企業に働くものたちに、私たちの要請行動を「異常な」行動に見せたいのでしょうか、「異常な」対応をしているのは間違いなく東京海上日動社です。見る人が見れば必ずわかるはずです。

私たちはいままで積み重ねてきた「経験」を通して、こういった会社の不誠実さに対して無駄なエネルギーを注ぐことなく、そのエネルギーを次の行動に注ぐことを覚えています。全国各地で仲間が同じ思いでこの2週間総行動後半に取りくんでいます。この共感を手に、最後まで頑張り抜きましょう。